

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人 上善会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市字新川2105番地		
自己評価作成日	平成30年11月25日	評価結果市町村受理日	平成31年 2月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ijyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成30年12月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は敷地内に病院が併設されており、急変時や夜間の時間帯でも速やかに対応ができます。また、訪問看護も24時間対応していますので、医療との連携もしっかりとれています。施設の行事やイベントがある時はご家族を交えて、一緒に楽しめる環境づくりをしています。また別にご家族との交流会を開催し、入居者、ご家族、職員との親睦を深め、ご家族の意向や入居者の情報などを聞き入れ、日々のケアに取り入れるようにしています。防災訓練は年に2回、入居者含めの日中、夜間想定訓練を実施しています。災害時などは、併設の病院や老健施設との連携もとれる体制があります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする施設で、自然豊かな郊外の海が見渡せる同敷地内には、病院、老人保健施設とデイサービスがあり週1回看護師が、健康状態のチェックを行い、緊急時には24時間対応で、医療との連携が密に図られている。他の施設とは敬老会の行事や、避難訓練等を合同で行い、職員や利用者も行き来し、日頃から顔見知りの関係である。食事は職員が交替で3食事業所で調理し、利用者の身体状況に合わせた食事形態に配慮し、週1回利用者のリクエストを聞く人気メニューの日を継続して行っている。利用者の誕生日に、職員が民族衣装を着て琉球舞踊を披露し、家族からケーキの差し入れがあり、利用者全員で余興を楽しみながら会を開催している。家族や同級生等友人の面会が多く駐車場も確保している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある意思や人格を尊重し、出来る事への自立支援をできる限り職員のケアの統一を実践し、本人へ押し付けることなく、スムーズに快く行えるよう、声掛け支援をしています。理念は毎朝ミーティングで勤務者全員で唱和し、確認しています。	開設時に職員で作成した理念を、玄関や事務所等に掲示し、毎朝ミーティング時に唱和している。人格を尊重した自立援助を行うと言う理念の下、無理なくリハビリが行えるよう、食材の買い出しをプランに入れる等職員間で確認しケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流会や敬老会などの行事でのボランティア公園など、地域の方たちとの交流を楽しんでいます。また、職員と一緒に近くのスーパーへ食材の買い出しに行くなど近隣、地域との触れ合いも大切にしています。	自治会に加入し、自治会長より伝達を受けて豊年祭等地域の行事に、利用者と職員と一緒に参加している。近隣の保育園児が訪れ、じゃんけん大会で負けると肩もみ等のゲームを楽しんでいる。ゆらていく市場へ食材の買い出しやマーケットへおやつ購入等で地域の方と利用者が触れ合える支援に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、受け入れをしている福祉体験や職場体験を通して、認知症への理解を伝え、実践とともに認知症の方の気持ちなどを少しでも理解できるよう入居者様と接してもらいます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見が出たことを職員に伝え、出来る事をみんなで話し合い、取り組みを行っています。また、行政、地域関連の話では、災害時のことなどをどのようにしていくかなどのアドバイスを頂いたりしています。それをもとに、防災計画などを立てたりしています。	運営推進会議は年6回開催され、利用者・家族・市担当職員・民生委員が参加しているが、知見者の参加がない。会議では活動報告や事故報告等を行っている。民生委員より、地域のイベント等の報告がある。議事録や外部評価結果は、ファイリングして玄関近くに設置し公表している。	運営推進会議の構成員として、知見者の参加に向けた取組みが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市役所職員よりサービス内容についての意見やアドバイスなどを真摯に受け止め、職員と話し合いながら見直しや改善に努めています。また、入居者によっては地域包括との連携を取り、情報交換をしたり、会議などでアドバイスを頂いたりしています。	ケアマネージャーが申請代行や更新時に、市窓口を訪れ担当者と密に連携を図っている。行政より介護報酬の改定や契約書の追加内容についてアドバイスを受ける等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、職員間で話し合いを持ちながら、努力をしています。居室においては、夜間センサーを使用し、対応できるようにしています。玄関やベランダは常時開放しており、外へ出る時は職員が付き添いを行い、入居者の意に沿うよう努力を行っています。	身体拘束関連マニュアルや身体的拘束等の適正化のための指針を作成している。法人の身体拘束禁止の研修会に参加した職員が研修報告会を実施、勉強会を通して情報の共有を図り、拘束しないケアに繋げている。法人の身体拘束等適正化委員会の3か月毎の会議に7名が構成員として参加している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様への尊厳を忘れず、接するよう日々、努めています。虐待について、職員間で情報の共有を図り、入居者様に合わせた対応などを話し合い、虐待防止に努めています。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを作成し、外部研修に参加している。管理者は、不適切な言葉掛けがないよう、注意しておきたい禁句・心得として、臭いは匂うや汚いは汚れている等言葉の言い換えをするよう勉強会で確認し支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で10月から成年後見人制度を利用されている方がおります。今後、理解を深めるために、勉強会を行う予定です。ご家族や成年後見人の方たちと連携を図りながら、入居者様が気持ちよく過ごせるよう支援していきます。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は丁寧に行っています。説明後にご家族に不明な点をお伺いしながら、納得されるまで説明をし、同意を得てご署名、捺印を頂いています。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会、訪問時にコミュニケーションを図りながら、話しやすい環境づくりに努めています。要望、苦情、意見などがある時はそのまま聞き入れるようにしています。玄関先に意見箱の設置もあります。	利用者から日々の会話の中で要望を聞き、家族とは面会時や運営推進会議の中で、意見を聞く機会を設けている。家族から利用者と一緒に初詣に参加したいとの要望があり、ボランティアの協力を得て実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見・相談がある時はその都度聞き入れ、毎月のミーティングで話し合いをするようにしています。現場の職員の声を取り入れ、みんなで決めるようにしています。ケアの内容の確認や改善、情報の共有、環境整備などに活かされています。	管理者は、ミーティング時や定例会議等で職員から、意見や要望を聞き、法人運営会議で職員の意見等を報告している。職員から夜間や緊急時に持ち歩ける電話機の子機があると対応がスムーズになるとの要望があり、購入が可能となった。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに職員1人1人がそれぞれ目標設定をし、上司と本人とで目標をどう達成していくかなど話し合いを行っています。設定した目標の実践と評価を行い、給与や賞与に反映されています。	職員は、年2回事務長との面談がある。法人が作成した就業規則が整備され、資格取得や資格手当等の支援がある。職員は、交代で1時間の休憩が取れるよう配慮されている。職員の健康診断を、年1回夜勤者は年2回実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	法人内では、委員会などの勉強会や外部からの講師を呼んでの勉強会があり、参加しています。GH内でもDrによる認知症の勉強会も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者とは主に電話連絡で情報の共有を行っている。以前に訪問をしたことがあり、職員同士の交流もあった。今後は今まで以上に交流の機会を設けられるよう計画を立て、サービスの質の向上に努めていきたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は慣れるまで寄り添い、本人の声を聴きながら、要望や不安なことを理解しながら、関係作りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちをしっかり聞き、ご家族の心情をしっかりと理解したうえで、コミュニケーションを図っていきます。面会や電話連絡した時など、こちらでの様子を報告し、苦情要望などがないか、声掛けを行い確認をしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を面談の中で見極め、本人に必要なことを確認しながら、ケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役はあくまで入居者だということを忘れず、本人の出来る事を妨げないよう一緒に活動を行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員任せにならないよう、常にご家族には声をかけています。行事なども協力をして頂くこともあります。ご家族と職員それぞれが一緒に支援していくということを職員も理解をし、常にご家族とコミュニケーションを図り、関係を築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、親戚や友人の面会があり、関係は継続しています。また、自宅近くの行事などがあると参加され、近所の方や知り合いの方と交流をされたりしています。	家族や友人宅を訪問し、なじみの食事をごちそうになったり、行き付けの美容院や床屋さんに家族と出掛けられる様調整し対応している。創立記念日や忘年会に家族と参加できるよう元職場の応援により実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮をし、家事活動やレク等に参加を促し、孤立しないよう、交流しやすい環境づくりをしています。また、交流が難しい時は、間に職員が入り、利用者同士が関わりやすいよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切にし、必要に応じて経過を確認し、相談や助言などを行っています。また、施設へ移動された方には、面会に伺い、状態や状況を確認しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方は本人より思いや意向を確認し、難しい方は本人の状態やご家族からの聞き取りで本人の思いを確認し、把握するようにしています。	アセスメントを利用し、本人や家族から、思いや意向について、直接聴き情報を得ている。困難な利用者には分かり易い言葉掛けで、選択出来る様に努めている。県外や島外から、家族や友人が訪れる際には、一時帰宅や外食に出掛けられる様調整を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談時、またはご家族の面会時などに本人のこれまでの様子や生活歴などを聞き取り、把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者の様子を観察し、気づいたことなど、職員と情報の共有を行っています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意向を踏まえ、介護、看護などの意見を聞きながら、話し合いを持ち、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者と家族等の意向をもとに、短期目標を半年とし、長期目標を更新時に行い、利用者の状況に応じて随時の見直しもしている。担当職員を中心に達成状況を話し合い、計画作成担当が月1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づいたことを職員やご家族と担当者と話し合い、これまでのプランの見直しを行いながら介護計画書に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、受診など、できるだけご家族にお願いしていますが、難しい時などは施設で対応しています。その他、ニーズがある時は、出来る限り対応をしています。		



自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の方も参加されるので地域の情報や資源など、教えてもらいながら、活用できることは相談したりしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されているため、いつでも受診できる体制や医療面に関して相談できる状況にあります。	利用者全員が併設の病院で年1回定期健診を受診している。他科(眼科、歯科、皮膚科等)診療のときは、家族が対応し、受診後には、家族から報告を受け、職員と家族で情報を共有している。必要に応じて職員が支援して受診した後、家族にその旨連絡し家族との連携を取りあっている。週1回看護師が訪問し、必要に応じてその都健康状態をチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に8時間の配置があり、バイタルチェックや薬の管理を行っています。また、入居者に変化があったときは報告、相談をしています。24時間体制でオンコール対応も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関との連携を密にし、面会に行くときには入院先の担当者看護師や相談員などから情報収集して連携をとるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人、ご家族の希望を確認し、そのうえで事業所でできることを説明し、方針を共有しています。医療機関への希望がある場合は関係機関との連携を行っています。	重度化した場合や終末期医療に向けての対応に関する指針や、看取りに関する指針等を定め、入居時に、家族並びに担当責任職員に説明し、同意を得ている。重度化による医療機関への転院の希望に対しては、隣接の同法人の医療機関との連携体制がとられているが、現時点での実績は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるよう、マニュアルがあります。また、職員間でも話し合いをしたり、看護師に相談したり、勉強会を行ったりしています。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、防災訓練は職員が実践できるプログラムになっており、訓練時は職員が行っています。地域とは、まだ連携が取れるまでに至っていません。今後の課題です。	消防訓練実施計画を作成し、年2回(3/9、9/1)消防署の指導のもと、昼夜想定避難訓練を、年2回併設の法人施設と共同で実施している。備蓄については、食料品は事業所で3日分を保管し、備品等については、併設の法人施設で管理されている。避難訓練への地域住民の参加については、現在近隣の住民と交渉中である。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライベート空間の邪魔にならないよう、配慮しています。また、言葉遣いや態度で入居者を傷つけないよう、職員同士注意しながら対応しています。	職員は、利用者の気持ちを大切に、言葉かけや対応の仕方等、利用者個々のニーズに合った対応を実践している。また、虐待防止や、個人のプライバシー保護についての研修会等にも参加し、理解を深めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動時や外出する時には、参加の意思を本人に確認し、声掛けを行います。意思表示が難しい方には、身振り手振りなどを交えて理解できるまで説明し、何とか意思を確認するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子や意思を確認し、入居者の過ごしやすいよう、時間などの配慮を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや身だしなみなど、本人に確認しながら行っています。意思決定の難しい方には、洋服に汚れなどがあつた場合には着替えるなど清潔保持に努めています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1度、人気メニューの日を設定し、入居者から聞き取りをして好きなメニューを提供するようにしています。また、月に一度、おやつ会の日を設け、みんなでおやつを作っています。入居者に合わせ、分担をしながら一緒に作っています。	食事は、出来るだけ利用者の希望を取り入れ事業所で調理している。毎週火曜日に「人気メニューの日」を設定し、利用者の希望を取り入れている。庭で採れた野菜等を利用して調理した食事を提供するなど、利用者から大変喜ばれている。また、クリスマスや正月等四季折々の行事食を提供している。職員は休憩時間を利用して、弁当持参または、自宅で昼食を取っている。利用者と職員が同じものを一緒に食事ができる環境の検討が期待される。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎回チェックしています。水分摂取量が少ない時は、おやつをゼリーやプリンなどの水菓子に変更したり、食事にむらがある時は、好きなものを入れるなど工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。うまくできない方は、職員が手伝い清潔保持に努めています。歯磨きが難しい方はうがいを促したりしています。義歯は夕食後、洗浄剤に浸けています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムがあり、それに応じて排泄の声掛けを行い、タイミングがずれないようにチェック表を確認しながら、支援しています。また、入居者の表情や仕草など、いち早く気づけるよう観察を行っています。	自己排泄の訴えのない利用者は、排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握し支援している。利用者の表情や動作などで把握し支援している。トイレには、カーテン並びにドアが併設されプライバシーが保護されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューを工夫し、食物繊維や乳製品などを取り入れるようにしています。また、体操やレクを行い、体を動かす機会を設けたり、同じ時間にトイレへ誘導し、排便のリズム作りも行っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回の入浴を行っていますが、気分によって入浴が難しい時などは、曜日の変更や時間帯を変更しながら、柔軟に対応しています。	入浴は、週4回利用者ごとに曜日を定めて、個浴で対応しているが、利用者の希望があれば、曜日の変更も含め支援している。また、どうしても入浴を嫌がる時には、清拭で済ませる等、工夫して対応している。入浴は、本人の了解を得て異性対応で行なうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や休息時間の記録の確認をしながら、個々の生活習慣に合わせて声掛けを行っています。日によって時間がずれることもありますが、要望を聞きながら支援しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるよう、一覧表のファイルを設置しています。お薬に変更があった場合はノートに記入し、情報の共有を行っています。また、入居者に変化があった場合は看護師と相談し、医療機関へ報告をしています。	1日の業務の流れ(作業手順)に沿って薬剤の早見シートにより、服薬の支援をしており、利用者の症状や変化などの確認に努め、対応している。料理に混ぜた薬を他の利用者が食べたのかどうか、確認が取れない事についての検討が行われている。安全な服薬支援のためのマニュアルが作成されていない。	安全な服薬支援のために、マニュアルを作成し、職員間の服薬の支援が共有されることが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、主体的に役割を担えるよう職員が付き添い、声掛けをしたり、必要時は一緒にいたりしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやお買い物など、入居者の希望を添えながら行っています。また、ご家族からの要望があった時など、ご家族からの協力を頂きながら支援しています。	日用品の買い出しや、食材の仕入れに、ドライブを兼ねて外出支援をしている。また、天気の良い日には車で遠くの川平公園までドライブし、気分転換や、ストレス解消に努めている。利用者から要望があった場合には、家族と協力し、地域での行事等への参加など要望に応えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお買い物の申し入れがあった場合は一緒に買い物行くなど、希望に添えるようにしています。自分で選んでお金を払うという一連の動作を本人に行ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応をしています。字を書くのが苦手な方には、職員が代筆などを行っています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はわかりやすいような表記にしたり、施設内や居室など、心地よく過ごせるような色味にしたりしています。また、季節ごとに飾り付けを変え、季節感を楽しんでもらえる工夫もしています。普段聞きなれた三線などの音楽を流してリラックスできるよう配慮しています。	玄関や、廊下、居間、浴室、トイレ等は清掃が行き届き、清潔感がある。フローには、季節に応じた飾りつけやソファ等が配置され、民謡や軽音楽が流れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月22日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席のほかにソファ席を設置し、気分によって過ごせるよう、居場所の工夫をしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みのものを持ってきて置いたり、飾ったり、好きなようにディスプレイをして頂いています。	居室には、ダンス、鏡台、ソファ、テーブル、洗面台、クーラー等が配置され、ラジカセや、写真等の個人で持ち込みの品もあり、また、装飾に個人の気に入った絵画や、工芸品も配置され、雰囲気づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、わかりやすい表記を多くし、見守りだけで施設内を移動したり、声掛けでできることは促しをしています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム星のふる里

作成日 : 平成 31 年 2 月 5 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	運営推進会議の構成員として、知見者の参加に向けた取り組み	運営推進会議の構成員(地域の代表、サービス知見者、役所、入居者、ご家族、管理者)の構成をしっかりと行う。	地域の方とコミュニケーションをとりながら、協力を頂けるよう声掛けを行う。	2ヶ月
2	47(20)	安全な服薬支援のために、マニュアルを作成し、職員間の服薬の支援が共有されることが望まれる	安全に服薬支援が行える	グループホーム独自のお薬マニュアルを作成し、職員間で内容の共有と、支援方法の統一を図る	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。